

編集後記

徳島赤十字病院 内科 新谷保実

2013年度は、アベノミクスによる景気回復の気配とともに、2020年東京オリンピックの招致決定、「富士山」「和食」のユネスコ世界文化遺産への登録など、東日本大震災から3年を経てようやく明るい知らせが聞こえてくるようになりました。その一方で、福島第一原発の汚染水問題は出口がないまま原発問題自体が政治課題として膠着状態ですし、中韓との外交関係の悪化に加え、限定的な景気回復の中での今春からの消費税増税など、まだまだ不安な要素が少なくありません。日本は未曾有の高齢化社会に向かっており、財政健全化など課題はつきませんが、少しずつでも高齢者や弱者に優しい社会に向かって行って欲しいものです。

さて、2013年度の徳島赤十字病院医学雑誌（第19巻）を発刊する季節が来ました。10年前の本誌（第9巻）を振り返って見ますと、35件の投稿があり、新病院移転を直近に控えた病院の成長過程や当時のスタッフの勢いを感じられます。昨年（第18巻）は24件の掲載に留まりましたが、今回は各部門より計30件の投稿をいただき、インパクトのある充実した内容になっています。ただ、我々の責任でもあるのですが、初期研修医からの投稿は3件に留まっており（昨年は6件）、（医師に限らず）研修中の先生方にもっと誌上発表の機会を持っていただければと感じています。

当院が今後も発展を続け、10年後に本誌を振り返った際には、新棟建設を控えて安定成長期に入った病院・スタッフの姿が感じられることを期待して編集後記とさせていただきます。